

質問内容について

- ◆「ない」を選択した場合の理由は、どの程度まで記入すればいいのか。

具体的な状態がわかるように必要な項目については、特記事項を記入してください。

例えば、1群の中で歩行や洗身の状況、2群の中で移動・排泄・着脱、外出の状況等、対象者の状況が伝わりやすい項目の特記事項を記載してください。

3群については、実際に聞き取った内容を記載してください。

4群については、精神・行動障害が見られなければ記載がなくてもいいです。

5群については、日常の意思決定、買い物・簡単な調理等を記載すると、より生活状況が伝わりやすくなります。

- ◆今回新たに出来た調査項目は別として、今までと同じ項目の特記事項の記入も必要なのか。

対象者の状態がわかるように、以前からの内容についても必要な項目は特記事項に記載してください。

今回の調査票では、調査時の状況と日常の状況に差があっても、調査時の状況で項目を選択することになっています。調査時と日常生活の状況に差がある時には、具体的に特記事項に記載してください。

前回と選択項目が違う項目については、状況を記載しておく状況が伝わりやすいので、新・旧の項目で見るのではなく、対象者の状況が伝わるような特記事項の記載をしてください。

- ◆例として歩行の項目。例えば歩行の定義は5m以上歩けば出来るの定義にも関わらず、その定義に基づき「自立」にチェックし、特記記載しないと「5m歩けるんですか」とチェックが入ってしまうのは何故か。

歩行は「つかまらないでできる」状況だとしても、他の項目の特記事項を読んだ時に、状況が伝わりにくいことがあります。

例えば、移動が「見守り」にチェックがついている、立位が「何かにつかまればできる」にチェックがついているような時に、歩行の特記事項に記載がないと、状態像に矛盾を感じる場合もあります。

他の項目のチェックや特記事項の記載内容と合わせて、対象者の状況を伝えるようにしてください。

◆自立の対象者について、「自立」にチェックしただけでは不足か。

「自立」の選択だけでは、対象者の状況が分からないこともある為、より具体的に対象者の状況や介助の状況がわかるように、必要な項目は特記事項に記載してください。

【システム上の問題で調査票の表記が「自立（介助なし）」と見直し前の選択肢になっていますが、見直し後は「介助されていない」という選択肢の表記になりました。新しい表記に直った調査票の配布は5月下旬以降になります。】

「介助されていない」を選択する際は、自立していて介助の必要のない場合と、生活状況や家族の状況等で必要な介助がされていない場合があります。「介助されていない」が選択肢にある項目は、対象者のADLや介助の状況を評価する項目の為、その状況が分かるように特記事項に記載する必要があります。

以下の項目は、選択肢のみでは伝わりにくい項目なので、状況が分かるように特記事項をなるべく記載するようにしてください。

1群「歩行」「洗身」

2群「移乗」「移動」「食事摂取」「排尿」「排便」「上衣の着脱」「ズボン等の着脱」

5群「薬の内服」「日常の意思決定」「買い物」「調理」

7群「認知症高齢者の日常生活自立度」

◆いままでは、加齢による筋力低下が該当になっていたが、新テキストの確認方法では、動かすことが出来ると該当にならない。でも、定義はやはり加齢による筋力低下等も含まれると記載。どこまでの機能低下が該当になるのか。

加齢による筋力低下・随意的な運動機能の低下等みられていても、あくまで確認動作が行なえるか否かによって選択してください。日常生活上での支障に関しては評価しません。支障がある場合は、特記事項に記載してください。

◆頻度について、「日常的」や「ほぼ毎日」は頻度に入らないのか。

頻度とは、出現度や繰り返し起こる度合いのことなので、「日常的」や「ほぼ毎日」と言う表現は曖昧で具体的ではありません。

頻度を問う項目では「ときどきある⇒月に1回以上・週に1回未満」「ある⇒少なくとも週に1回以上」と選択基準が決まっており、更により具体的な回数を特記事項に記載することによって、対象者の状態像や介護の手間の状況を伝えることができます。

また、より頻回な状況から選択する際は、それぞれの状況の頻度を特記事項に記載しておく、詳しい状況が伝わります。